

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30 年 11 月 17 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3473600371		
法人名	社会福祉法人 三篠会		
事業所名	グループホーム甲田		
所在地	広島県安芸高田市甲田町下小原3363番地 (電話) 0826-45-7777		
自己評価作成日	平成30年10月22日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=3473600371-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成30年11月7日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

一人ひとりがその人らしさを活かせるよう、その思いに寄り添い、ご利用者やご家族の希望をお聞きし、落ち着いて楽しい生活が送れるよう支援している。また、グループホーム内だけでなく、地域の方々とも交流し、結びつきを深め、地域住民の一人として役割を獲得し、メリハリのある生活を送れるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

自然豊かな場所に立地しており、傍に畑があり、野菜の収穫を行うなど家庭での生活に近い雰囲気を感じることができる。利用者の意向、生活習慣に応じ、能力を活かした支援を行っており、一人ひとりの状態を職員が周知、把握した上で細やかな配慮のもと実践、ケアを行っている。事業所で企画した桜祭りやもちつき等の行事に地域の参加があり、また、地域の祭りやサロンに利用者が参加するなど、日常的に地域と交流を図っている。法人全体でノーリフティングケア（抱えあげない介護）目指して、定期的な研修会を行い、利用者の負担軽減、職員の腰痛予防として、実践に取り入れている。資格取得の費用、研修日も出勤扱いにするなど、職員が資格がとりやすく、スキルアップができるよう法人でバックアップ体制がとれている。また、施設長が全職員を対象に個人面談を年1回行っており、思いを伝えやすく、働きやすい環境になっている。

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念、部署目標に基づき利用者処遇や職員のケアに対する意識統一を図る。またミーティングや申し送り時に必ず確認するようにしている。	理念は年1回理事長より職員が話を聞く機会がある。また、全職員に冊子を配り、説明しており各職員が理念を周知している。また、目標記録シートを立て、その中に施設全体目標、部署目標、個人目標があり、半年に1回全職員が振り返り、作成を行っており、それに基づき行動、支援をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事には職員と一緒に参加している。春には施設主導のさくら祭りを開催し、地域の方にもご協力いただくことで地域の方との交流の場として開放している。また、秋に地域の祭りがあり参加していただき利用者様と地域の方と交流を持てるよう配慮している。その他、法人内の保育園や近隣の保育園から交流会という形で交流を図っている。	桜祭りには地域の方が出店を出したり、出し物に参加していただくなど協力を受けながら行事を開催し、地域活性化にもつながっている。地域の婦人会が週1回行うサロンに利用者が定期的に出掛けて食事を行い交流を図っている。また同法人や、地域の保育園の園児が来て学習発表会等の演目を行って頂く等、日常的に地域との付き合いがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議では、全利用者様に参加をしていただいております。地域の方との会話の中で理解を得ている。地域の民生委員や振興会役員の方にも参加していただくことで情報交換を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年4回定期的に開催している。前回会議からの3か月間の出来事などを報告し、今後のサービス向上のために意見交換をしている。	運営推進会議は利用者、家族、民生委員、地域振興会役員、保健医療課、地域包括支援センター等が出席される。事業報告、行事報告や毎回テーマを変えるアトラクションなどが行われる。運営推進会議で出た情報で、地域の行事に参加した例もあり、意見交換の内容を運営に活かし、サービスの質の向上につなげている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	行政担当者とは運営推進会議を通じて事業所の実績やサービスの取組み等定期的に情報交換を行っており連携、質の向上に努めている。	運営推進会議に市の職員が出席し、定期的に事業所の状況を報告している。日頃も密に連絡をとっている。また、行政機関の依頼により市民講座や介護サポーター制度の講師を行うなど、協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束・玄関の施錠は行っていない。	代表者会議、部署ミーティング、委員会、定期的な研修会により、各職員に「身体拘束をしないケア」を徹底している。身体拘束を行った事例はなく、本人の行動を理解し、ケアの工夫によって対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	普段より職員が虐待について勉強し、個々の意識を高め、利用者様が安心して生活できるよう心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	地域権利擁護事業や成年後見人制度について外部研修で学ぶ機会があり、研修資料等は閲覧できるようファイルしてある。又必要な方には支援できる体制にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入退所時に面接や調査を行い、説明、納得の上同意を得ている。また、サービス内容の変更点(加算等)は運営推進会議の場でも説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議だけでなく家族会などを定期的で開催することで、利用者様ご家族からの意見を伺えるように機会を設けている。	「ハートBOX(意見箱)」を設置し日頃から利用者、家族から意見をいただいている。また、年1回運営推進会議と兼ねて家族交流会を開催しており、その中で家族の意見を伺っている。意見をもとに「食事のメニュー」、「灯りについて」など改善された例があり、運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員面談等、定期的に意見を聞く機会を設けており、その機会以外でも随時対応している。</p>	<p>施設長が年1回全職員を対象に個人面談を行っており、意見を聞く機会を設けている。また、日頃の業務の中でも職員から常に話を聞くようにしており、希望により部署が移動した事や食事介助の人数が変わった例などがある。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>年2回の業務評価において面接を行い、職員個々の意見を聞く機会を設けている。その中で個人目標を設定し、各自の意欲向上を図るとともに意見交換を行っている。その他、法人全体としてノーリフティングケアを推奨し、腰痛予防に努める等、職員が働きやすい環境を目指している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人内外への研修参加の機会を設けており業務改善に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>関連事業所と研修会や交換実習等を通して、交流や意見交換をし業務改善に努めている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>利用開始前に本人と家族・職員を含めた事前面接を行い、要望や不安な点等を聞く機会を設けている。利用開始後も本人の訴えに応じて傾聴し、思いを汲みとり納得していただけるよう心掛けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>利用開始前の事前面接を通して、本人・ご家族と話し合いの場を設けることで不安を取り除けるよう努めている。利用開始後も運営推進会議や家族会を通し、話を聞き思いを知る努力をしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>専門職が連携を取りながら、本人や家族と情報交換を行い、本人の希望に添えるよう努力している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>毎日の生活において、本人の生活歴を通し、個人個人に合った役割や得意な分野を見出すことで、それぞれの思いが尊重できるよう心掛けている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族会や運営推進会議を定期的に開催することで利用者様の近況報告を行っている。外出等に関しては、家族の理解を得ながら関係を保っている。また、定期的なカンファレンスに家族を招き、利用者様の現状報告を行うことで、一緒に今後の生活を考えていただく機会を設けている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>施設関係者以外の来園に対しての受け入れを行っている。また、地域の祭りへの参加や施設内での祭りなどの行事にも地域の方に参加していただくことで馴染みのある方との交流を支援している。</p>	<p>事業所に家族、近所の人、知人など馴染みの人の面会がある。また、家族による外出で自宅に帰ったり、墓参りをしたり、外食を行うこともある。近くのサロン「絆」に定期的に行き食事をすることがあり、日常的に地域の方と顔なじみになっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の生活の中で、行事や外出を通して交流を持ち、仲間としての意識や関わりを持つ機会が持てるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も退所後の受け入れ先等の相談や調整を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の生活において、本人の希望や意向を把握するためにしっかりと関わりを持つことで、本人への理解を深め、本人に合った生活環境の提供ができるよう検討している。	生活歴や日々の関わりの中で、利用者一人ひとりの意向や希望を把握し、関わりを持っている。本人の意向に応じ、掃除、畑仕事、制作物作成、外出などの取り組みをしている。以前の生活習慣が継続できるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	個人ファイルの内容充実等により情報収集に努め、個人の生活歴の把握を行うようにしているが、核家族化によって連絡が取りづらい、キーパーソンが利用者様のこれまでの経過を知らない等の現状もあり情報不足の点もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個人個人の票を作成し、生活面での注意点・趣味・パーソナリティの把握に努め、情報の共有を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員の意見や、気づきなどを日々記録し、家族の意向を取り入れて介護計画を作成している。	事前に家族に意向を確認し、利用者の担当職員を含めて介護計画作成者が中心となり、カンファレンスを行い、介護計画を作成している。利用者の状態を把握し、日々の気づきが含まれているため、現状に即した内容の計画になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日個々の生活状況を記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	既存のサービスに捉われることなく、本人の状態の変化などにも合わせた、個々のニーズに対応する柔軟なサービス提供を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しみることができるよう支援している。	地域の行事に参加したり、地域の方との交流会を持ち、利用者様が生き生きと生活していただけるよう支援に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者様・ご家族の希望を重視し、適切な医療機関に受診していただけるよう支援している。	利用者、家族の意向に応じてかかりつけ医を決めている。また、グループ内の地域交流スペースに月2回医師の往診がある。往診の結果で特別な場合に担当職員から家族に連絡し、状況を伝えている。事業所内に看護師もおり、医師との連携も図られている。	

自己評価	外部評価	項 目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者様の状態を把握し報告している。服薬や健康管理に気を配り連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	随時、医療関係者と連絡を取り合っている。また、退院調整等を相談員中心に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	主治医の指示のもと本人、家族、職員とで話し合いを行っている。	重度化した場合は主治医の指示、家族に意向を聞き、職員を含め話し合いを行い、方針を決めている。事業所で対応する場合はケアを工夫し、対応している。同一敷地内に特別養護老人ホームがあり、家族の希望により移行することもあるなど、バックアップ体制がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	日頃から医務室との連携を図り、定期的な救急講習を受けている。救急マニュアルにも目を通し、職員の意識付けをするよう心掛けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練を実施しており、地域の自主防災訓練にも参加している。	避難訓練を年2回行い、非常時の対応を職員が身につけており、地域の参加もある。備蓄は缶詰、カンパン、火をつける器具、リネンなどがある。地域の自主訓練には毎年6月に開催され、避難所をダンボールで作ったり、消火訓練、担架を使用する訓練等があり、職員が参加している。また、施設は地域の福祉避難所になっている。	

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人の人格や誇り、プライバシーに関して損なわれることがないよう配慮し、記録の取り扱いについても慎重に行っている。	利用者個々の生活歴、バックボーンを把握し、尊重した上で、個々の年齢に応じた言葉掛け、対応を行っている。その人らしい生活が送れるように配慮している。研修でも接遇やプライバシー保護についても学習し、職員一人ひとりが身につけている。個人情報については守秘義務があり、入職時に職員から同意をもらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人自ら行動し、意思決定できるような支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースに合わせた暮らしが送れるよう、その人らしい生活の支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人らしさやその人の好みのおしゃれを出来るだけ提供するよう心掛け支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食の好みについては、利用者様に嗜好調査を実施している。食事の準備や後片付けはお手伝いいただきながら一緒に関わりを持っている。その他、利用者様の嚥下状態に合わせて、食形態の調整を行っている。	食事の準備、後片付けは、利用者の意向に応じ、できる範囲で行っている。事業所の傍にある畑で野菜を収穫したり、大学イモ等のおやつづくりを利用者と職員が一緒になってする機会もある。また、近くのコンビニに行き、飲食スペースでおやつを食べたり、外食に出掛けることもあり、食を楽しむ支援をしている。	

自己評価	外部評価	項 目 (A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事形態を個人にあったものを提供することで、栄養面だけでなく食事量の確保に努めている。水分摂取もこまめに提供することで摂取量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、一人ひとり口腔ケアの声掛け、促しを行い実施している。自分で口腔ケアが困難な方には職員が介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	日中、夜間とその方に合わせたトイレ誘導を行い、リハビリパンツ・尿とりパットへの失敗の軽減に努めている。またトイレ誘導時には蒸しタオルでの清拭を行い、気持ちよく排泄していただけるよう心掛けている。	座位が保たれれば可能な限り、トイレで排泄して頂くようにしている。利用者の残存能力を活かし、自分でできる排泄動作はしていただき、できない部分を介助している。排泄チェック表を記入し、内容を職員が共有し、利用者個々に応じた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日午前・午後とラジオ体操やリハビリ体操等の運動を行い、水分補給にも気を付けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	利用者様一人ひとりの体調や気持ちを尊重し部署の生活支援に沿って、行事等との調整を行いながらゆっくと楽しんでいただけるよう入浴していただいている。	入浴は個別に対応し、ご本人が希望されない場合は時間をずらしたり、翌日に入っていただくなど、配慮している。また、本人の意向に合わせてゆっくと湯船に浸かっていただくなど、時間も調整している。	

自己評価	外部評価	項 目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>利用者様の生活リズムを尊重しながら散歩や体操等を通じて心地よい疲労感を感じていただけるよう配慮している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>個人の服薬ファイルを作成し、職員全員が目を通すことで意識を高め、服薬に対する認識をきちんと持つよう努めている。状態に応じて、職員間で話し合い、必要に応じて看護師に指示を仰いでいる。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの能力や今までの生活歴等を参考にしながら役割を見つけ、楽しみながら生活できるよう支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>事業所の裏庭には季節に合わせた菜園や花づくりができるよう整備し、一緒に取り組めるよう配慮している。また、個別ケアを通して本人の希望を伺い、レクリエーション等の支援をしている。</p>	<p>各月で行事担当を決め、花見、紅葉狩り、梨狩り、初詣に出掛けたり、買物、外食など日常的に外出支援を行っている。地域の行事に参加することや家族による外出もあり、生活が活性化するように取り組んでいる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>本人や家族の希望があれば支援を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(A棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>本人や家族の希望があれば支援を行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用空間は1日に3回、利用者様とともに清掃を行い、清潔を保つようにしている。ホールには外出行事の記念写真を置き、毎日の生活活動の制作等を飾るなどし、利用者様の安らげる場所づくりを心掛けている。</p>	<p>家庭のように居心地の良い空間になるように工夫しており、ソファや椅子も適切に配置され、リビングに生花を飾っている。壁には利用者が作った制作物が貼られている。木を基調とした建物で、窓から外の風景も見え、四季の移り変わりも感じられ、落ち着いた雰囲気である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>食事や談話、テレビを楽しむスペース等を設け、利用者様同士で思い思いに過ごせる場の提供に努めている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室は本人やご家族と相談しながら、在宅等で使用されていた馴染みのものを持ち込んでいただく等して本人が安心して過ごせる居心地のよい部屋となるよう工夫、協力している。</p>	<p>エアコン、ベッド、カーテン、洗面台は備え付けている。ご本人の生活上必要な物品などは自由に持ち込まれている。使い慣れたテーブル、作業台など持ち込まれていた。家族の写真を飾っている利用者もおり、居心地よく過ごせる様に工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>生活上の注意点、趣味などを知り、スタッフ間情報共有し、サービス向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念、部署目標に基づき利用者処遇や職員のケアに対する意識統一を図る。またミーティングや申し送り時に必ず確認するようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事には職員と一緒に参加している。春には施設主導のさくら祭りを開催し、地域の方にもご協力いただくことで地域の方との交流の場として開放している。また、秋に地域の祭りがあり参加していただき利用者様と地域の方と交流を持てるよう配慮している。その他、法人内の保育園や近隣の保育園から交流会という形で交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議では、全利用者様に参加をしていただいております。地域の方との会話の中で理解を得ている。地域の民生委員や振興会役員の方にも参加していただくことで情報交換を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年4回定期的に開催している。前回会議からの3か月間の出来事などを報告し、今後のサービス向上のために意見交換をしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	行政担当者とは運営推進会議を通じて事業所の実績やサービスの取組み等定期的に情報交換を行っており連携、質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束・玄関の施錠は行っていない。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>普段より職員が虐待について勉強し、個々の意識を高め、利用者様が安心して生活できるよう心掛けている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>地域権利擁護事業や成年後見人制度について外部研修で学ぶ機会があり、研修資料等は閲覧できるようファイルしてある。又必要な方には支援できる体制にある。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入退所時に面接や調査を行い、説明、納得の上同意を得ている。また、サービス内容の変更点(加算等)は運営推進会議の場でも説明を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議だけでなく家族会などを定期的に開催することで、利用者様ご家族からの意見を伺えるように機会を設けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員面談等、定期的に意見を聞く機会を設けており、その機会以外でも随時対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回の業務評価において面接を行い、職員個々の意見を聞く機会を設けている。その中で個人目標を設定し、各自の意欲向上を図るとともに意見交換を行っている。その他、法人全体としてノーリフティングケアを推奨し、腰痛予防に努める等、職員が働きやすい環境を目指している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外への研修参加の機会を設けており業務改善に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	関連事業所と研修会や交換実習等を通して、交流や意見交換をし業務改善に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用開始前に本人と家族・職員を含めた事前面接を行い、要望や不安な点等を聞く機会を設けている。利用開始後も本人の訴えに応じて傾聴し、思いを汲みとり納得していただけるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用開始前の事前面接を通して、本人・ご家族と話し合いの場を設けることで不安を取り除けるよう努めている。利用開始後も運営推進会議や家族会を通し、話を聞き思いを知る努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	専門職が連携を取りながら、本人や家族と情報交換を行い、本人の希望に添えるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	毎日の生活において、本人の生活歴を通し、個人個人に合った役割や得意な分野を見出すことで、それぞれの思いが尊重できるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族会や運営推進会議を定期的に開催することで利用者様の近況報告を行っている。外出等に関しては、家族の理解を得ながら関係を保っている。また、定期的なカンファレンスに家族を招き、利用者様の現状報告を行うことで、一緒に今後の生活を考えていただく機会を設けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	施設関係者以外の来園に対しての受け入れを行っている。また、地域の祭りへの参加や施設内での祭りなどの行事にも地域の方に参加していただくことで馴染みのある方との交流を支援している。		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>日々の生活の中で、行事や外出を通して交流を持ち、仲間としての意識や関わりを持つ機会が持てるよう努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>契約終了後も退所後の受け入れ先等の相談や調整を行っている。</p>		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日頃の生活において、本人の希望や意向を把握するためにしっかりと関わりを持つことで、本人への理解を深め、本人に合った生活環境の提供ができるよう検討している。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>個人ファイルの内容充実等により情報収集に努め、個人の生活歴の把握を行うようにしているが、核家族化によって連絡が取りづらい、キーパーソンが利用者様のこれまでの経過を知らない等の現状もあり情報不足の点もある。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	<p>個人個人の票を作成し、生活面での注意点・趣味・パーソナリティの把握に努め、情報の共有を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>職員の意見や、気づきなどを日々記録し、家族の意向を取り入れて介護計画を作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日個々の生活状況を記録している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>既存のサービスに捉われることなく、本人の状態の変化などにも合わせた、個々のニーズに対応する柔軟なサービス提供を心掛けている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の行事に参加したり、地域の方との交流会を持ち、利用者様が生き生きと生活していただけるよう支援に努めている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>利用者様・ご家族の希望を重視し、適切な医療機関に受診していただけるよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目 (B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者様の状態を把握し報告している。服薬や健康管理に気を配り連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	随時、医療関係者と連絡を取り合っている。また、退院調整等を相談員中心に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	主治医の指示のもと本人、家族、職員とで話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	日頃から医務室との連携を図り、定期的な救急講習を受けている。救急マニュアルにも目を通し、職員の意識付けをするよう心掛けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練を実施しており、地域の自主防災訓練にも参加している。		

自己評価	外部評価	項 目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人の人格や誇り、プライバシーに関して損なわれることがないよう配慮し、記録の取り扱いについても慎重に行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人自ら行動し、意思決定できるような支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースに合わせた暮らしが送れるよう、その人らしい生活の支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人らしさやその人の好みのおしゃれを出来るだけ提供するよう心掛け支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食の好みについては、利用者様に嗜好調査を実施している。 食事の準備や後片付けはお手伝いいただきながら一緒に関わりを持っている。その他、利用者様の嚥下状態に合わせて、食形態の調整を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事形態を個人にあったものを提供することで、栄養面だけでなく食事量の確保に努めている。水分摂取もこまめに提供することで摂取量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、一人ひとり口腔ケアの声掛け、促しを行い実施している。自分で口腔ケアが困難な方には職員が介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	日中、夜間とその方に合わせたトイレ誘導を行い、リハビリパンツ・尿とりパットへの失敗の軽減に努めている。またトイレ誘導時には蒸しタオルでの清拭を行い、気持ちよく排泄していただけるよう心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日午前・午後とラジオ体操やリハビリ体操等の運動を行い、水分補給にも気を付けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	利用者様一人ひとりの体調や気持ちを尊重し部署の生活支援に沿って、行事等との調整を行いながらゆっくと楽しんでいただけるよう入浴していただいている。		

自己評価	外部評価	項目(B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者様の生活リズムを尊重しながら散歩や体操等を通じて心地よい疲労感を感じていただけるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人の服薬ファイルを作成し、職員全員が目を通すことで意識を高め、服薬に対する認識をきちんと持つよう努めている。状態に応じて、職員間で話し合い、必要に応じて看護師に指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの能力や今までの生活歴等を参考にしながら役割を見つけ、楽しみながら生活できるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	事業所の裏庭には季節に合わせた菜園や花づくりができるよう整備し、一緒に取り組めるよう配慮している。また、個別ケアを通して本人の希望を伺い、レクリエーション等の支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人や家族の希望があれば支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目 (B棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>本人や家族の希望があれば支援を行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用空間は1日に3回、利用者様とともに清掃を行い、清潔を保つようにしている。ホールには外出行事の記念写真を置き、毎日の生活活動の制作等を飾るなどし、利用者様の安らげる場所づくりを心掛けている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>食事や談話、テレビを楽しむスペース等を設け、利用者様同士で思い思いに過ごせる場の提供に努めている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室は本人やご家族と相談しながら、在宅等で使用されていた馴染みのものを持ち込んでいただく等して本人が安心して過ごせる居心地のよい部屋となるよう工夫、協力している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>生活上の注意点、趣味などを知り、スタッフ間情報共有し、サービス向上に努めている。</p>		

V アウトカム項目(A) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V アウトカム項目(B棟) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム甲田

作成日 平成30年12月18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	西日本豪雨という災害もあった為、避難訓練や災害時の対応について、GH独自に取り組む必要がある。	GHを中心とした避難訓練や災害時の対応方法を検討する場を設ける。	避難訓練を実施し、災害時の対応方法について、検討する機会とする。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。